



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア：イラン情勢についてのサウジ紙論調

(6月23日付ワタン紙)

23日付現地ワタン紙は、大統領選挙後の混乱するイラン情勢に関する論説を掲載している。概要は以下の通り。なお、サウジ政府からは特に立場の表明等を行われていない。

1. タイトル：「これ（改革の動き）はイランの革命精神そのものではないのか」

2. 論説内容

- (1) テヘランでの特に青年層による騒擾は、30年前のシャー打倒のそれを思い出させるものである。イラン革命は、路上に集まったイランの青年達による「ホメイニー支持」と「悪魔の打倒」の呼びかけにより実現したものである。テヘランの路上にこそ、真のイラン革命の精神が宿っていると言えるであろう。よって歴代の為政者はその正当性を確認するために路上に赴いてきた。
- (2) 今日、同じ路上では「真の改革」への声が上がリ、「イラン革命」が国内外に危機的状況をもたらしてしまったと主張されている。イラン青年らの路上での行動は、革命後の世代がイラン政府の現在の立場を拒否し、政府による善隣・和平の精神に基づく外交関係や開発・近代化の促進を希望している事を示している。
- (3) イランの革命精神は変革への呼びかけを通じて体現されるものであり、公正な社会の実現を目的としてシャー体制を打破した30年前の出来事はこの変革の精神に基づくものであった。そして最近のイランでの混乱は革命精神が変革を求めて動き出した事を示していると言えよう。
- (4) 確かに国レベルではイラン・アラブ間で問題はあるが、それは国民間では異なる事を理解すべきである。現在のイランの保守的かつ過激な政策が国際関係に緊張を生じさせてしまった。ハータミー前大統領の時代にはサウジ・イラン、アラブ・イラン関係は良好な関係になる可能性が十分にあった。アブドッラー・サウジ国王が平和のために宗教・文明間対話を唱導しているが、それは特にイランに対しての呼びかけでもある。我々はイスラームの同胞精神を持ってイラン国民に語りかけるべきであろう。この同胞精神こそがサウジの外交政策の礎石である。
- (5) イランが現在の危機的状況から前向きな精神で脱出し、また近隣国による関係正常化への呼びかけに前向きに応え、地域及びイスラーム世界において然るべき存在となる事を期待する。